大正九年二月二十三日第三種郵便物認可
大正十四年十一月廿三日印刷納本

日本及日本人

十二月號

社會正義と英斷
新聞は讀むべきもの
新聞に讀まれてはならぬ
九州の旅
別府市＝漁業＝温泉＝夜の別府海岸＝
大分海岸＝宮崎市＝青島＝代議士のお
行儀＝移民招致に努力する宮崎縣＝宮
島
―編輯の後―

每月一回一日發行　第六十九號　大正十四年十二月一日發行

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

社會正義と英斷

民衆解放の叫びの結果、民衆のタガはゆるんだ。同時に、責任觀念もゆるんだ。そのスキマへ享樂氣分が這ひ込んで來た。

學生が親から貰ふ學費と學校を利用するには、だまつて、覺へられるだけ早く覺へてしまふべきだ。それが賢い方法である。なぜなら、覺へてしまつた後に活動する時が來る。決して其の前ではない。

けれども、今日の多くの指導者は責任觀念のゆるんだ民衆や、未製品なる學生を眞面目に指導することの代りに、彼等を讃讃し、民衆の名によつて社會革命を稱へてゐる。そして、それは決して民衆を善導するものではなく、實は、民衆に媚び、衆を指導すると云ふことは、社會正義と英斷とによつて民衆をたのんで社會の安定を破り社會を掠奪するものであり、結局民衆の將來の幸福を奪ふものである。

民衆を指導するといふことは、決して、媚ぶべきものではない。

故に、この社會正義と英斷とを民衆の將來の幸福のために實行し得る人こそ、學者であれ、女であれ男であれ、現代に最も必要な人物である。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新聞は讀むべきもの
新聞に讀まれてはならぬ

新聞は讀むべきもの新聞に讀まれてはならぬ

前號に於て、新聞の偉力に付き聊か書きましたが、勿論、この偉力なるものは時代により國柄によつて差違ひますし、又、周圍から受ける影響の差によつても新聞の人格なるものに變化が起つて來ますし、且ツ、又、讀者に對する新聞の態度にもそれ〴〵の差があります。

が、新聞が直接政府の制裁の下にある場合ひ則ち半官の新聞の行ふ偉力は實は新聞の偉力ではなく共れは政府の偉力です。

佛蘭西のような國に於ては英國の地方新聞が行つてゐるような勢力を行ふ地方新聞はなく、社會を動かし得る程の勢力を持つてゐるものは首都新聞のみです。

米國に於ては、首都の新聞も地方の新聞も其の偉力に關しては優劣はなく、むしろ、その勢力は全國に割りふられてあります。つまり、全國の凡ての新聞の勢力を皆あつめて偉大なる力となるので、一ツでは力がないのです。たとへば、倫敦タイムスが以前持つてゐたようなヅヌケて偉大なる勢力を一ツの新聞が持つてゐると云ふやうなことは米國にはないのです。要するに、米國の新聞の偉力と云ふものは一ツに集中されてゐないのです。もし、新聞と新聞の間に偉力の相違があるとすれば共れは指導者の人格の差であつて新聞紙の偉力の差ではないのです。そして、米國では記事と廣告によつて新聞

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の偉力を行つて居ることが殊に濃厚です。

獨逸に於ては、大學の教授法と科學的の研究との間の關係が密着であつて、そして、まだ、新聞學の講座が無いために、新聞に關する緻密な研究が妨げられてゐると云はれてゐます。從つて、獨逸に於ては社會黨の新聞を除く外は新聞の勢力は甚だ薄弱です。そして、大戰前に於ける獨逸の政府と社會黨との間の懸隔は社會黨の新聞の創刊と偉力に於てよりも外には何處にも其の證據は現れてゐなかつたのです。

一九〇八年に獨逸の社會黨は獨逸のうちに日刊新聞を六十八も持つてゐました。そして、六十二種の職業と産業がそれ〳〵特別の新聞を持つてゐました。且つ、又、ボーランド人や伊太利人のためには彼等自身の國語の新聞を發行してゐました。そして、或る勞働組合で發行する新聞を講讀してゐる數を調べて見ると、それは全戸數の三分ノ一であつたと云ふことです。

獨逸の社會黨の新聞の調子は反宗教的で、時によれば烈しく無神論的であるけれども、最も公平に見て、興味は廣く、文學的能力に於ては遙かに英國の新聞を陵駕してゐると云はれてゐます。で、それ等の社會黨の新聞の偉力をよく承知して居る人々にとつては、カイゼルの獨裁政治、汎獨逸主義、軍國盟主に對する一九一八年の革命は當然であり、決して、驚きでは無かつたのです。

佛蘭西では、各政治家が自分の機關新聞を持ちたいと云ふ望みを持つてゐるので、政治家を新聞記者に、新聞記者を政治家にしてゐます。

英國では責任政府の原則が新聞の偉力を歡迎しました。政府が國民に訴へることがあつたり又は、總選擧が在野黨の勝利に歸せられそうになつたりする場合には新聞は大いに活動しなければならない。則ち、社會の脈の動き工合ひを速かに察知して、そして、其の變化を手早く報

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

告しなければならない。

米國に於ては、勢力均衡の原則のために、英國に於て行はれるのと同じように政治の範圍に新聞の偉力を用ゆることは出來ない。新聞紙の興味と偉力は中間的（どッちつかず）のもので、そして、その興味や偉力の流れは國會議員や大統領の選擧の時に一致します。

前にも云つた通り、米國では一都市一地方が他の都市他の地方を率ゐると云ふことなく、新聞が政治の上に行ふ偉力も米國全土に擴がつてゐて、此處にあると指摘することは出來ないのに反して、英國では倫敦新聞と地方新聞との二種に分類することが出來るし、又、近年に至つては、新聞の偉力の變化、つまり、新聞の勢力が一ツの新聞代表者から他の新聞代表者へと移り變つて行くしるしが見へて來たと云はれてゐます。

新聞は或る時には、元始的の人間性を帶びて、又、或る場合には第一線に立つて働くと云ふよりは、むしろ、後方勤務と云ふようなかたちをとることもあります。

其の偉力を政府の上に最も強く行ふ場合ひがあるかと思へば、政府が新聞から何等の偉力を感じないこともあります。又、新聞の偉力の結果が、誰、一地方にのみ現れる場合ひと、一國全體とに及ぼす場合とがあります。

とにかく、新聞の偉力と云ふことを考へるに當つては、國民自身の常に止まない衝動と興味と云ふことを忘れてはなりません。そして、其の興味は、時によれば朝廷に集中し、時によれば軍事に、又は、宗教に、或ひは又演劇に、論爭に、教會問題に、舞踏に、競技にと云ふように。

が、要するに、新聞の偉力なるものは、國により、發行數により、又ば、その國際的、國民的、地方的等の特長により、或ひは、又、その

新聞は讀むべきもの新聞に讀まれてはならぬ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

使命に忠實であるか無いかによつて變化して行くことは云ふ迄もありません。

そして、新聞讀者なる我々は新聞の偉力を左右する最も重要なる要素でありますから、我々は新聞の態度を常に監視してゐる必要があります。

酒は、我々が呑めば益があるが、併し、我々が酒に呑まれては有害であると同じように、我々が新聞を讀めば有益であるに反して、新聞に我々が讀まれたのでは、つまり、新聞にひきづられては有害です。

そして、新聞に讀まれるのではなく、新聞を讀むには新聞の正邪善惡を判斷する必要があります。

何によつて新聞の正邪善惡を判斷し得るでせうか？

それは、自分が最も正確に知つてゐる事實を注意して見ることです。

それを標準として外の記事の正邪を判斷してゐます。

行つて差し支へないと私は考へてゐます。

もう一言。社會に於ける新聞は人體に於ける脈絡です。體の異狀は脈絡に現れるように社會の異狀は新聞に現れます。そして、情慾の過度働き過ぎ、不斷の心配が脈絡に反應するように不健全な社會狀態が絶へず新聞に反應してゐます。

刺戟的新聞記事が要求されてゐることは確かに大都會の一種の慢性病であります。そして、此慢性病は自分の力以上のものを持たうとする結果です、實際には持てないが持つた　うな氣持ちになりたい。自由は求めても得られないから自由論を持つて滿足しようとする。おごりを攻擊しようとしても出來ないから、おごりを攻擊した記事を見て滿足しようとする。そして此處に新聞に讀まれると云ふ危險が起つて來るのです

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

九州の旅

【別府市】　別府市へ一歩足を踏み入れた時には其れが市であると云ふ感じよりも漁村であると云ふ感じの方が濃厚です。質朴な平和な漁村へ現代文明が侵入して来たと云ふ氣持ちがします。と云ふのは、漁船のつけ場として殘された何十間かの自然のまゝの浪打ぎわに漁船は勿論、澤山の網が日光にさらされてあるし、網つくろひをしてゐる老人達がゐるし、漁夫の妻達や嬢達はニホシの手入れに忙しくしてゐますが、その海岸の大部分は既でに埋立てられ、そして、可なり大きな建物——多くは旅館——が出來上がつてゐます。

漁船の着け場として自然のまゝに殘された海岸に於ては靜かにひた〳〵と打ち上げてゐる浪も、埋立地の岩壁に對しては、恰かも自分の領分を犯されたことを怒るかのように浪がしらを強く打ちつけてはまつ白なしぶきを空高く打ち上げてゐます。

併し、漁村であると云ふ感じが濃厚であると云ふのは波止場から一歩入つた海岸通りに止まつてゐて、もう少し深く町中に這入れば其の感じは全く消へてしまいます。

なぜなら、たてに行つても横に歩いても二丁も行けばすぐ靜かな郊外と云つたような處へ出るのに、その狹い町中には三百餘の旅館——大抵は三階建て——があつて、そして、それに伴ふ商店が軒を並べてゐるからです。そして、それ等の旅館が一ケ年間に迎へる浴客の數は二百餘萬と注されて居ります。

又、別府市なたてに貫ぬいてゐる主要な道路、流川通りの上の方へ行くと宏壯優美な建物のいくつかが目に付きますが其れ等も皆他所からの浴客を待つ旅館であるし、その通りの下の方、則ち、海岸によつた方は別府名産と稱する數多の土産ものを賣る商店です。

【漁業】　有島夫人と二人で宿と定めた旅館は泉孫別館ですが、これは埋立地に建られたもので、すぐ前に朝日川をへだてゝ前に云つた漁船の着場を見下してゐます。

漁る魚の種類によつて取る時間も違ふかして無數の

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

漁船が絶へず出たり入つたりしてゐました。夜になると、別府灣から豐後洋に出ようとする處あたりと思へる海上に、それらの漁船のかがり火がまるでイルユミネーションのように空の星と光りを競うて美しく輝いてゐます。一晩中、漁りを續けて、そして、夜がホノボノと明け始める頃に引き上げて來るのですが、或る朝、それ等の漁夫の檣を漕ぐかけ聲が勇ましく、何にやらハタ〳〵ともの叩く音さへするのでゐんがはへ出て見ると、漁船にはむしろの旗さへ押し立てゝゐます。後で宿の番頭に尋ねて見ると、それは大漁であつたしるしだと云ふことです。

旅館の二階から海岸及び海上を眺めてゐると、海上には本業の漁夫、海岸には素人漁夫の姿が絶へたことがありません。投網をなげてゐるもの、釣をたれてゐるもの、潮がひいたあとの砂を掘つて釣りの餌を探してゐるものなど。こう云ふ風に人間から明けても暮れても絶へ間なく攻められては水の中に生存してゐる魚も大抵のことではないとつくづく思ふのでした。

魚市場は私達の宿のちき近くにありました。此の市場だけでの一ケ年の賣り上げ高は百萬圓だそうですが行つて見ると實に大した魚の數でした。無數の種類の魚の中で鯛と烏賊がいつも一番多いようでした。おくどい色をした三尺もありそうな河豚もあちこちに散見されました。だが、海から上げられてまだ間がないので死にきれず、それ等の鯛や河豚が斷末魔の苦しい呼吸をアップ〳〵してゐる處や、鰕や蟹が死に對する反抗の意志及び苦もんの情をハサミや足に現してもだへてゐる處は見て餘まり氣持ちのよいものではありません。所謂「いきが」いゝと云つて其の肉の味を喜ぶ人間の惨虐と云ふことも思はれるのでした。

百圓もあらうと思へるたいきの上へ魚は種類によつて分けられ積み上げられ、そして一山づゝせり上げられて賣られるのですが、賣手と買手の其の烈しいかけひきはまるで戰爭のようで體力屈強の若い男子でなければより付けない。見物人が其近くでなぞフラ〳〵ななまぐさい水をして居れば突きとばされ、どろ〳〵ななまぐさい氣の立つぶツかけられゝような有樣です。でも、その氣の立つた、あらくれた空氣の間をすばしこくくゝり廻つて兄

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

妹らしい五六歳の女の子と七八歳の男の子とが、小さいブリキの罐を持つて、あちこちにこぼれて見殘された小さい魚を拾つて歩いてゐる姿はいぢらしいものでした。

【温泉】　市場の盛んなことゝ云ひ、三百有餘の旅館があつてもまだ足りないらしく普請が所々に始められつゝあることゝ云ひ、商店界の活氣付いてゐることゝ云ひ、お客や貨物を積んだ蒸氣船が絶へず出入してゐることゝ云ひ、別府はぐん〳〵發展して行く氣配を示して居りますが、その發展するもとはと云へば温泉が豐富であるからです。

數ある旅館の殆んど凡てがうち湯を持つてゐるばかりでなく、市有の共同浴場がいくつもあつて、それは市民であれ、外來人であれ、無料で一日に幾度でも這入れるようになつてゐます。その共同浴場の一つなる「東温泉」を一寸のぞいて見ましたが、これは浴槽二十個を有し、勿論、自然湧出の湯で浴槽毎に温度を異にしてゐると云ふことでした。

町を歩いてゐて下水が流れてゐると思へば其れが湯であるし、浪打ちぎわに清水がたまつてゐると思つて近かづいて見ればむく〳〵砂を上げて地中から湯が湧出してゐるので指をふれて見ればやけどをしそうにあつかつたり。砂湯と云ふのは矢張り此の海岸のつゞきの浪打ぎわの砂に身體を埋めて首だけ出してあたゝまるのです。世話女がゐて、一十五錢位ひの料金をとつて穴を掘つたり砂をかけてやつたりしてゐます。

又、此の海岸砂湯と地を相接して「湯の海水浴場」があります。海底から無限の温泉が隨所に湧出して居るので水が温いばかりでなく、温泉の藥分と海水との或る化學作用によつて人體の健康に益する處が多いと云はれて居ります。

別府市は東に面した海岸に位ひして西に連山を控へて居りますか「別府富士」と稱されてゐる富士山のようなかたちの鶴見山を中央とした其れ等の連山のふもとを見上げると青々としたそれ等の山の裾に眞白な湯氣がもう〳〵と立つてゐるのが隨所に見へますが、それ等は所謂「地獄」であります。無數にある地獄の中で「海地獄」と稱されてゐるものは全面積千坪もあらうかと

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

思へる熱湯池で、濛々と白い湯氣を立てゝ、地の心まで底ぬけてゐるかと思へる程凄い〳〵碧色をしてぐら〳〵煮へくり返つてゐます。

「血の池地獄」と云ふのは赭泥を池の底に見せて矢張り湯がふつ〳〵と煮へ立つてゐる。「坊主地獄」と云ふのは泥の小坊主がぶく〳〵と噴き出してゐるのです。

又、「鐵輪（かなわ）地獄」や「かまど地獄」は凄い程猛烈な勢ひで熱泉を空中高く噴出してゐるのです。これを利用してラジユーム蒸氣吸入や、むし風呂の設備や、又は温泉を蒸發乾固して「湯の華」を製出してゐます。

どの地獄にも池のふちに茶店があつて、池の中でゆでた卵を賣つたり、即席の地獄染（湯の花染）を見物人に試みさせたり、又、「かまど地獄」では地底から噴出する熱氣を利用しておまんぢゆうをふかして賣つてゐます。

それ等の地獄を見物しての歸途に於ては唯々、「奇觀非觀、偉觀」をくり返へしてゐるより外の言葉は出ませんでした。とにかく、何處へ行つても藥分をゆたかに含む湯がこんこんと湧いて溢れてゐる。市民に湯をわかすと云ふ必要を少しももたない。自然に湧く湯がどんなに使つても〳〵使ひきれずに海の中へと流れ込んでゐるのです。温泉に浸る土地、湯に惠まれた都と云ふ感を別府を知れば知る程深くして行くのでした。

「夜の別府海岸」　水の都と云はれるベニスの外は私は世界の何處にも心をひかれはしませんでしたが、それは住宅の軒下までキレイな水がヒタ〳〵と押しよせてゐて、東京のようなほこりごみが少しも無い清淨な氣持ちを思ふからでした。處がその氣持ちを別府に於て味ひ得て「もうイタリー迄行く必要はない」とさへ私は考へるのでした。

なぜなら別府灣外から押し上げて來る透明な潮は埋立地に建てられた「泉孫別館」のすぐ軒下までヒタ〳〵と押しよせて來て、或る日には地底から水が動いてゐるらしく浪がしらを少しも立てずに大うねりにうねつてゐるし、又、或る日には水のほんの表面だけが動いてゐるらしく縮緬じはをたたへてゐるし、或る日には白いしぶきを高く上げて騒々しく、又或る日には油を

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

流したように乃至かんみのように静かにすんで、そして夕方になると、向ふ側の埋立地から大きな旅館の無数の灯だの街路の電燈だの、その街路を走る電車や自動車の赤い灯などを其の潮が呑んで、ゐます。有島夫人と二人、宿の湯から上がつて二階のゑんがはに涼をとりながら毎夜のように其の清淨な美しさを心行くばかりほめたゝへてゐました。

別府の氣候は東京よりは約一ケ月の差があります。私達は十月一杯居たのですが、ゆかたで丁度よい時、セルで丁度よい時、時によれば袷衣羽織が必要と云ふ位ひの處でした。

別府市内は眺望明媚な處やいろ〳〵の名蹟に富んでゐるらしく、私共と同宿の浴客は毎日々々遊覽に出かけて居りましたが、私は入湯に行つてゐろと云ふだけで、常に仕事を持つて居りましたから、地獄めぐりの外は何處へも行きませんでした。私におつき合ひ下さつて矢張り何處へもゐらつしやらなかつた有島夫人には本當に御氣の毒だつたと思つてゐます。

別府に居る間に、唯、一つ遺憾であつたことは私達の旅館と、電車道をへだて、朝日川に沿ふて貸座敷の一廓があることでした。或る夕、郵便局に急ぐ近道を教へられて不圖氣が付て見ると其等の建物が遊女屋であり、しかも中學生らしい四五人の男子がその建物の中へ入り、何にかごと〳〵女達と話し合つてゐるのを見て、ゾクリとする氣持ちを押へることが出來ませんでした。

【大分沿岸】　十月三十一日の正午いよ〳〵別府を後に私達は宮崎に向ひました。沿岸を走る汽車の中から見るいくつも〳〵の風景は實に目もさむるばかりで至る處、白砂青松、水の清いこと水晶のようでした。「あらまア、キレイですこと、二見が浦！」と私が叫ぶと有島夫人が「ヂヨウダンぢやないわ、二見ヶ浦は仲勢ちやありませんか。」「でも繪で見る二見ヶ浦としてゐますわ。」「それぢや新二見ヶ浦れ。」「エー、さうです。」

「あら、今度は一ツ見が浦」「あら今度は四ツ身が浦！」「あら三ツ身が浦」と私が連呼するので夫人はとう〳〵笑ひ出して「まるで子供の着物の裁ち方見た、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

れ」

さながらに水の公園の連續なる沿岸を汽車が離れるに連れてやがて山又山が眼界を限るようになりました處で、それ等の山と山の間の人家の附近の土地がたんれんに耕やされてあつて一坪乃至半坪の地面でも無駄に遊ばせてはないこと、家の周圍には大抵柿や蜜柑の木が三四本づゝゆたかに果實をつけて軒をかすめて居ること、又、或る箇所では小山の頂上迄、美しく、耕やされて畑になつてゐることなどを見て、その邊の農夫の勤勉なことには驚歎させられました。惜しいことには汽車が大分縣を離れて宮崎縣に入らうとする處あたりで日が暮れてしまいました。

【宮崎市】　宮崎市の大淀川に臨んだ神田橋旅館の二階座敷で、いつの間にかふり出してゐた雨の夜が白々と明けました。昨日の朝迄、毎朝眺めてゐた落ち付きのない海、船の出入りで忙しない別府灣とは全く趣きを異にしただいつぴろい大淀川が絹糸のような、東京で云へば春雨のような靜かな雨を呑みながら音もなく船も浮べずに東を指して流れてゐました。

川の上や旅館の中は靜かでしたが、併し、その日は雨にも拘らず宮崎縣下女子陸上競技大會が開催されるので花火や樂隊の音で外はにぎやかでした。

その日の午後、縣公會堂に於て講演を致しました。全市をあげて女子競技に熱中して居られる最中であるにも拘らず相當の數の人々があつまり、しかも、かなり年の進んだ男女の方達を御見受けしたことは少なからざる滿足でした。講演者は私一人限りだつたもので すから二時間半ばかり續けて聽いて頂きました。

【青島（あをしま）】　翌くる朝は雨がやんでゐました。床をはなれて緣がはに出てみると向ふ岸の松や家や空の雲がかゝみのような川の水の上にハッキリと映つてゐます。

縣廳の方の御厚意で午前中お國自慢の一つである天下の奇勝と云はれてゐる青島へ自動車を飛ばして頂きました。島は宮崎市の南方四里、東西に長き楕圓形をなして「青螺」のように浮んでゐる、そして、日本には めづらしい熱帶植物が繁茂してゐる小孤島です。滿潮面を抜く僅かに數尺乃至十數尺に過ぎないと云ふことです。そしてこれは大正十年三月內務省令により「天

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

然紀念保存物」に指定され、毎年數百圓の補助金が交付されるそうですが、昨今では細心の注意を以て其の保護に努めてゐるそうです。

岸と島とをつなぐ長さ九十間ばかりの橋を渡つて先づ目につくのは島の周圍の基岩の趨きであります。龜甲形に龜裂した砂岩の層の間にスレートのような頁岩を敷きつめて見渡す限り横列してゐる處、珊瑚礁とはこうもあらうかと思へる岩坡が幾重にも疊んでゐる處、「これは人工でせう？」と私が云ふと「え、、此處へ始めて來た方は皆さんがさう仰有います。けれども何處迄行つても〳〵こう云ふかつこうの岩坡、砂岩、頁岩が續いてゐるので、これが天然であると云ふことを承諾されます」と云ふお答へを得ました。

紅紫白の花瓣をまき散らしたような貝殻の碎片に覆はれた砂を踏んで島の中へ入る。内地に於ては見たこともない蒲葵（びろう）樹の林の中、その下のいろ〳〵めづらしい、どく〳〵しく繁茂してる灌木を見、そして十一月であるのに、まるで八月の太陽のように强烈な日光をあびて立つてゐると「一體、自分は何處へ來て居るのだらう」と云ふような不思議な氣持ちに襲はれます。午後の講演があるので、南洋へでも行かす、子供へ氣分にいつ迄もひたつてゐるわけにものおみやげに蒲葵樹の苗を一本頂いて自動車上の人となを振り返へり〳〵橋を渡り、再び、自りました。

その日は「愛慾」の問題に付て又二時間あまり話しました。終つて控室へ行くと、地方課長さんが「大分、男子に對して手きびしいでしたれ」と「本當に今のあなた方は私が攻撃するようないかも知れません。けれども、女性に性があまりに橫暴であつた其のむくひを頂きませう、ハハハ」「ハハハ」

【代議士のお行儀】　途中少しばかりみやげ物を買つて夕方旅館へ歸つて見るといつもとは樣子が變つてゐて何となく輝かしい、不圖、見ると、玄關先には旅館の定紋を染め出した幕がはり廻はされ、數ある電燈は前よりは二倍乃至三倍燭に代へられ、それ迄は單なる板ばりであつた廊下及び階段にはゴザがズーツと敷きつ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

められてあつた。のみならず女將は紋付きの羽織に着代へてゐますし、女中達は化粧をこらしてゐます。何樣の御入りですか？」と私は廊下で通りすがる女中に尋れて見ました。「○○○黨の大會が明日此處に御座いますので……」

「ハハー代議士さん達をお迎へする準備ですか。でも大變な騷ぎですれ！」

ホツ〳〵と自動車が乘りつけ、人力車が走りこむ氣配でありましたが其のうちドヤ〳〵と大勢が乘りこんで來ました。

天下た我がもの顏のゴーケツ笑ひ、パタ〳〵走る女中の足音、番頭の名を呼ぶかなきり聲、上を下への大混雜。

やがて、選良達はそれ〴〵の部屋へ納まつた。けれども、天下た我がもの顏の彼等が旅館内た我がまゝのと思ふのは當然であるかも知れません。彼等の仲間以外の客が外の部屋に居ろと云ふことなどは彼等の念頭にはナリ程も無い。十二時、一時になつても彼等の高調子の話聲や笑ひ聲、それに伴ふガタンバタンと云ふもの音は止まない。

とう〳〵寢そびれさせられてしまつた夜が明けて、洗面所へ行つて見ると、昨日迄はいつもピタリ閉まつてゐた便所と云ふ便所はみんなヒラツと開けつぱなしになつてゐる。その後いつ行つて見ても閉めて置いた戸が皆開けひろげられてゐた。

一體、我が大日本帝國の選良達は「便所の戸は閉めて置くものだ」と云ふことなどはまだ知つてゐないと云ふ感を深くしないわけには行きませんでした。

山の中だと相像してゐた宮崎縣は眼も遙かな田地畑地を有してゐて、それが、肥沃であり　氣候溫暖、私なお招き下さつた縣廳の方達は親切、聽衆は眞面目、凡てに於て、上々の印象の中に投げ込まれた暗い點は夜毎に大淀川の水を傳はつて來るらしい下品な三味線の音と代議士達の人も無げな無作法です。

幕を張つたり、廊下が濟めたり威儀を正したり神棚扱ひにされる彼等は實にまだ便所の戸は閉めるものだと云ふことを知つてゐない。針の先程も持つてゐないのです。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

【移民招致に努力する宮崎縣】　書きたいこと、御紹介したいことはまだ〳〵澤山ありますが、雜誌一册が全部「旅行記」になつてしまつても困りますから、この位ひで惜しい筆を擱くことにします。が、もう一ツいつ迄も忘れないだらうと思ふことは宮崎の柿の甘さとシーメタのかほりです。

猶、もう一ツ御紹介して置かればならぬことは宮崎縣は土地廣大且つ肥沃であるにも拘らず人口の密度は極めて疎であつて、人手が足りないために、一年に二度の收獲可能な田畑でも一度しか收獲をしないし未開の土地も少なくないので、人口の增殖を最急務となし移民招致の方法を講じ、諸種の便宜を提供して、これが奬勵に努めつゝあると云ふことです。海外移民にばかり心を捕はれてゐる人達の一考を要する點でありまます。

三日の朝、なごり惜しき宮崎市を出發し都城市に下車、劇場一杯の聽衆を前に二時間ばかりお話をしました。その後で、午後八時の發車まぎは迄を、十二三人の女學校の先生達とのかん談に過し、

九州の旅

いよ〳〵歸途につきました。都城出發、吉松にて鹿兒島本線に乘りかへ、熊本、福岡、門司を通過して下關へ參りましたから丁度九州を一周したことになります。

【宮島】　有島夫人の發意で、中途で一寸宮島へ下車致しました。子供の時分から「日本三景の一」と聞かされてゐた名所「嚴島」を見物するためです。汽車を下りると直ぐ大阪商船の經營にかゝるボートが待つてゐました。このボートが岸を離れてグルリと向きをかへるや否や忽ち嚴島に着くのですが、なにしろ、その絕景と云ふことは誰でもの念頭に深く刻み込まれてあるのですから、見物人の凡てが目を皿のようにしてこれから着かうとする島を見つめてゐます。處が、一向に變つた處はない、平凡なかたちの青い唯の島が其處に橫つてゐるだけです。

上陸して暫く歩いてゐる間にも、料理屋、旅館、みやげ物を賣る店などの容引きの塵がうるさいだけで私共の心を打つものは何にもありません。

嚴島神社を近くすると、さすがに、砂が美しく、ひ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

れくれた恰好の松があつたり、岸に沿ふて石燈籠が並んでゐたりする處は勿論風雅であります し、又、潮水滿つれば其れが神殿のゑんの下を一杯にすると云ふのですから、其の時には、その建物全部が水上に浮ぶやうに見へて其の風景が頗る秀麗であると云ふことも本當でせう。ですから、此處を名所として置くことに付ては不服は無いが、此處ともう二つの名所の外には風光明媚な處が日本には無いかのやうに、「日本三景」と云ふ言葉を新聞民の頭に植へ付けては正當でない、此處よりも優れた風景は外にも澤山あると云ふ氣持ちを私は押へることが出來ませんでした。

我が日本國民がものを廣く大きく見ろ目を持たない時分に、つまり、箱庭でも見るような氣持ちで、猫の額ぐらひな風景を喜んでゐた時代は過ぎた、今の私達は交通の便や其の他の理由で、もつと〳〵雄、且つ、大にして同時に明媚な風景を見てゐると云ふ感を私は深く致しました。勿論、多くの識者は既でに氣付いてゐることだとは思ひますが。

其處を最後のより場所として暫く休息した後に再び汽車に乘り、東京驛に着きましたのは五日午後八時半でした。

編輯の後

あはたゞしく、又、一年が終らうとして居ります。御心配な御後援を一つ、箱庭でも見ろ持ちで、猫の額ぐらひな喜んでゐた時代は過ぎた、今の私達は交通の便や其の他の理由で、もつと〳〵雄、且つ、大にして同時に明媚な風景を見てゐると云ふ感を私は深く致しました。勿論、多くの識者は既でに氣付いてゐることだとは思ひますが。

其處を最後のより場所として暫く休息した後に再び汽車に乘り、東京驛に着きましたのは五日午後八時半でした。

編輯の後

あはたゞしく、又、一年が終らうとして居ります。御心配なおかけした足の痛みは歸京後ズツト快く、つまり、私の體の大修繕も或る程度迄は成功致しました。又、大いに働かうとして居ります。相變らずの御後援を

本誌臨時定價表

一冊	六冊	十二冊	送料
金十錢	前金五十五錢	前金壹圓	五厘（送料共）（送料共）

■誌代及郵稅は前金の事■御送金の際は振替貯金東京五三六八八番に御拂込みのこと■■■